

1 松戸市立博物館設置の目的・基本的性格

① 設置の目的

平成4年9月24日制定の「松戸市立博物館条例」第2条に、「本市は、市民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、博物館を次のとおり設置する。」と明記されていますが、その理念の淵源は、昭和58年8月31日付け「松戸市美術館（郷土資料館及び古文書館を含む）構想調査会答申」まで遡ります。

博物館（当時は郷土資料館と呼称）を設置する目的は、以下のように明確に示されています。「松戸市は、長期構想を策定し、21世紀を展望した都市像として、『自然との調和』『人間尊重』を基調とし、市民連帯の下に心のふれあう豊かな都市を目指しています。市民が、国際的視野に立ち、将来を展望しつつ、自らのまちに限りない愛着と誇りをもち、自ら郷土の歴史をふまえ、文化的な生活都市への転換を図るためには、市民の活力と行政の条件整備が一体となった創造的活動が必要です。文化活動は市民の一人ひとりが個性を伸ばし、創造性を培い、自己の向上を図る自発的な行為である。本市においても、その活動は年々活発に行われ、市民はより充実した活動の機会を強く求めています。これらの機運に応えるとともに、豊かな情操と郷土愛を培う文化を未来社会へ継承する使命を果たすため造形美術部門、郷土資料部門、文書部門の機能を有する各文化施設が必要です。」

② 基本的性格

さらに同答申では、博物館が備えるべき7つの基本的性格が標榜されています。

市民生活に密着した親しみやすい
特色ある郷土資料館とする。

郷土の過去の姿を正しく理解し、
未来を展望するために、松戸市域
を中心とする原始・古代から現代に
至るまでの歴史を概観することが
できる場とする。

人類史的視野にたつて、松戸を
中心とする地域の風土の中で
生きた先人の生活と文化を
明らかにしてゆく。

縄文時代を中心とする考古資料を
もとに、原始社会の生活文化が
どのように展開したかを
明らかにする。

教育普及活動を重視し、
生涯教育の一環として、
市民が気軽に積極的に参加できる
自己学習と交流の場とする。

松戸市に関する考古・歴史・民俗
資料の保存に努める。

収集・保存・展示・教育普及活動等
をよりよいものにするため、
調査・研究活動を重視する。

上記の目的と基本的性格は現在においても必須な要件であり、さらに高度情報化社会やグローバル化の進展と市民生活の変化を踏まえ、以下の章・節において新たな内容が追加されてゆきます。またいずれにおいても、手法の改善が求められていることも言うまでもありません。

VI. 【当館所蔵シルクロード関係コレクションの展示】

- ・ 松戸市では 1980 年頃、シルクロード美術を展示する美術館が計画された際に収集されたコレクションの他、2020 年には新たに寄贈された奥井俊美氏のコレクションが加わりました。
- ・ ガンダーラ仏やイスラム陶器をはじめとする 400 点近いシルクロード関係コレクションを所蔵する公立の博物館・美術館は全国でもわずかである。これらの貴重な美術的・学術的価値が高い資料を、新たに創設する常設展示の可変的な展示室を利用し、計画的に公開します。
- ・ 同時に、調査研究を進め、これらのコレクションの価値や意義を追究し、広く人類史的な視野から発信に努めます。

庁内ワーキング意見

- ① 「文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律」へ紐付けするなら、「観光協会」または「旅行事業者」を盛り込んだ方が良いのでは？
- ② 教育のICT化について
松戸市ではGIGAスクール構想の加速化に伴い、小中学校全校のインターネット環境の整備と、一人一台タブレット端末の配付を令和3年3月末までに完了しております。「新しいファン層の獲得」の観点からも、ICT機器との関りを増やし、学習した内容が”実際に目で見、触れて、体験できる場所=博物館”となると、より深い連携が取れるのではないかと考えます。
- ③ 新たな展示空間の創設について
こども歴史体験ゾーンの整備や新しい展示空間について伺い、とても魅力を感じました。また、常設展示の中はもちろんのこと、無料展示の中でという話もとても魅力的だと思います。
本市では「松戸市小中学校造形作品展」や「松戸市理科作品展」、「松戸市小中学校書初め展」など児童生徒の作品を各学校から出展していただき、審査し、展示するものがございます。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、令和2年度には開催されなかったものもございますが、多くの市民の方々から開催の有無について問い合わせをいただきました。「松戸市小中学校造形作品展」においては、何とか児童生徒の作品が皆様にお見せできないか考え、Webでの展示を行い、好評の声もたくさんいただいております。もし可能であれば、Web上での展示と合わせて、博物館等と連携し期間を決めて”いろいろな場所でいろいろな方々の目に作品が届くようになれば”と考えております。「MORI×音楽・芸術」というパンフレットにもあるように芸術の視点からも連携の強化・協力ができればと考えております。
- ④ 特にICTによる情報の発信やVRの導入など若年層にも浸透しやすいコンテンツの検討は大切だと思います。
全体を通して思ったことはこの機会に博物館のシンボルとなるものがあるとPRしやすいのかな？ということです。
団地の展示が特徴的なものかもしれませんが、子どもも親しみやすいキャラクター的なものを設定してエントランスに銅像的なものを建てちゃうとか・・・
じょうちゃん・もんちゃんがそうなのかもしれませんが、正直子どもには浸透していないようですので。

⑤ 現状分析について

P-4 以降に示されているものと思いますが、基本的に良い点が挙げられているようです。基本目標の設定にあたって、「悪い点」、「改善すべき点」も同様に網羅しておく方が良いのでは。

⑥ 基本目標4 取組(2)

P-26 下段の<目指す姿>として記載されているものが、①でいう「改善すべき点」なのかと思います。<目指す姿>の記載内容としては、少し違和感があります。

⑦ イメージや写真などが挿入してあるとよりわかりやすくなると思います。

